

(有)そおりサイクルセンター 大崎有機工場



会社概要

事業内容 一般廃棄物の収集、運搬及び中間処理
堆肥製造・有機野菜栽培
設立 平成16年4月1日
代表者 (有)そおりサイクルセンター
代表取締役社長 宮地光弘
従業員数 60名



(有)そおりサイクルセンター
代表取締役社長 宮地光弘さん



▲ボランティア清掃や家庭から出た草木を
裁断機にてチップ化します。



▲生ゴミ、乳酸菌を混ぜ合わせます。



▲攪拌機かくはんきで不純物を取り除きま
す。分別にご協力を！



▲生ゴミ・草木類が完全完熟
堆肥へ生まれ変わりました。



▲家庭菜園用“おかえり環ちゃん”
15kg・5kg

(有)そおりサイクルセンター大崎有機工場を訪問しました。同社は、本町の資源ごみリサイクルを受託している会社です。この大崎有機工場では、本町が取り組む、28品目に及ぶ分別の1品目『生ゴミ』の堆肥化を行なっています。

この工場ができるまで生ごみは、全て埋め立て処分を行なっていました。埋め立て処分場の延命化と生ごみの資源化・減量化を目的に取り組みリサイクルの一環として平成13年度より町内の全世帯及び事業所を対象に生ごみの分別収集を開始しました。

持ち込まれた生ゴミは、ボラントニア作業や道路、公共施設などの伐採作業で生じた草木などを

裁断機で粉碎してできたチップと、発酵促進と防臭効果があるとされる乳酸菌と混ぜ合わせます。これらは、1週間置きに堆肥工場で発酵しやすいうように何度か切り替えて、自然発酵の力で堆肥化されます。

それから約2ヶ月置いたものを持ち出し、振るいにかけて、製品化しますが、中にはビニールや金属類などが混ざっていることもあるのだそうです。「生ゴミを出す際は、再度、不純物が入っていないか確認をお願いします」とのことでした。

そして約4ヶ月かけて、生ゴミは、完全完熟堆肥へと生まれ変わります。

この堆肥は、『おかえり環ちゃん』として、各家庭へ販売されています。

『おかえり環ちゃん』という名前の由来は家庭から出された生ごみが堆肥に変わり、畑で使い、畑で採れた野菜を人間が食べる。これがまさしく循環のしくみであることから循環の『環』の字をとってつけられた名前です。

同工場では地域循環型社会を目指しており、この堆肥等で菜の花を栽培し、菜種油として販売するとともに、料理に使った後の廃食油を軽油代替燃料などに再資源化する『菜の花エコプロジェクト』を町と協力し、推進しています。